

わ

く

わ

く

4月号



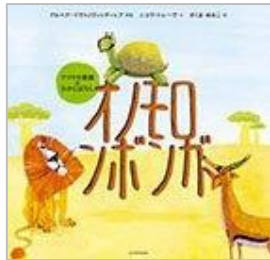
本だな

1

2

3

年



E『オノモロンボング アフリカ南部のむかしばなし』

アルベナ・イヴァノヴィッチ=レア／再話 ニコラ・トレヴ／絵

さくまゆみこ／訳 光村教育図書

カメが、おいしい実のなるまほうの木をさがしにでかけました。その木は<オノモロンボング>といって、なまえをよばないと実をくれないのです。そこへライオンがきて、あしのおそいかめのかわりに木をさがそうとしますが、なまえをわすれてしまいます。

えほん

E『こんとごん てんてんありなしのまき』

織田道代／ぶん 早川純子／え 福音館書店

こんがドアをあけると、おひさまが「きらきら」、かぜは「さわさわ」しています。ごんがとなりのドアをあけると、おひさまが「ぎらぎら」、かぜは「ざわざわ」していました。ふたりがドアの中をすすんでいくと、にているけれどすこしちがうことがおこります。

えほん



K913『とりあはずとりのはなし』

おくはらゆめ／作 あかね書房

スズメのはなこは、にんげんのお母さん^{かあ}がおけしょうをしているのをみて、まねをしてみたくになります。こっそりまどからへやにはいって、お母さんのほおべにをぬってみました。そのとき、おんなのこがみていることにきがついて、はなこはあわててにげだそうとします。

ものがたり

E『サクラ はる なつ あき ふゆ』

おくやまひさし／作 ほるぷ出版

ふゆのあいだ、えだだけだったサクラの木。つぼみがすこしずつふくらんで、はるには花がまんかいになりました。そこへ、メジロやミツバチがやってきて、みつをすったりかふんをはこんだりしています。

サクラをじっくりかんさつすると、たくさんのはっけんがあります。

ちしきのほん



としょかんのまどぐちには、くみたてると本になる「わくわく本だな」もあるよ。

ホームページもみてね！〈編集・発行〉 富山市立図書館 富山市西町5番1号 電話 076-461-3200

わ く わ く

4月号

本 だ な

4 5 6 年



物語

チイの花たば



K913 『チイの花たば』

森絵都／作 たかおゆうこ／絵 岩崎書店

チイのおばあさんは、お花やさんです。お客さんにぴったりの花たばをつくるおばあさんをみて、チイも花やになりたいと思うようになりました。そんなチイに、おばあさんは「花やにふさわしい人間か、花にためされる日がある」といいます。

ある夜チイは、夢の中で花畑にいました。そこで白ヤギのおじいさんと出会い、おくりものの花をえらぶ手伝いをします。

物語

K913 『ふたりのえびす』

高森美由紀／作 フレーベル館

青森県八戸市には、<えんぶり>という春をよぶお祭りがあります。太一と優希は、えんぶりで<えびす舞>をおどることになりました。しかし、太一はやる気がないうえに、優希はリズムおんちで、二人は息が合いません。

そんな中、太一がまわりにかくしているあることが原因で、優希と大ゲンカしてしまいます。



ちしきの本

K289 『エレキテルの謎を解け』

電気を発見した技術者平賀源内

鳴海風／著 高山ケンタ／画 岩崎書店

平賀源内は江戸時代の発明家です。初めて見るものでも仕組みを見ぬき、なんでも自分で作ることができました。しかし、オランダから来たくしびれる箱>だけは、長年仕組みがわからないままでした。

<くしびれる箱>の解明にとりかかった源内は、箱から出る火花がいなずまににていることに気が付きます。



図書館のまどぐちには、くみたてると本になる「わくわく本だな」もあるよ。

ホームページもみてね！〈編集・発行〉富山市立図書館 富山市西町5番1号 電話 076-461-3200